

Title	「苦難を通し、壁を越えて、次の世代へ」2014年2月15日、17日（総合研究所 News：東日本大震災国際神学シンポジウム：2013年度準備報告）
Author(s)	山本，俊明
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.2, 2013.12 : 47-48
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5033
Rights	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

東日本大震災国際神学シンポジウム

2013年度準備報告

「苦難を通し、壁を越えて、次の世代へ」

2014年2月15日、17日

シンポジウム開催の経緯

2011年の東日本大震災の被災に対して、フラー神学大学院から「日本の教会を支援するために何をしたらよいか」という提案があり、教会と信仰の再建のために国際シンポジウムを開催し、神学的に検討する運動体を作ることになった。こうして、東京基督教大学、聖学院大学など大学と東日本大震災救援キリスト者連絡会が実行委員会を結成し、教派教団を超えて参加を呼びかけ、2012年3月に「いかにしてもう一度立ちあがるか——これからの100年を見据えて」を総主題として掲げ、3年間のプログラムの第一回国際シンポジウムが開催された。これまでに2回開催されている。

シンポジウムの目的

このシンポジウムが、目指していることは、第一に、カトリック、プロテスタントだけでなく、プロテスタントの諸教派が、その違いを超えて、教会と信仰の再建に協力して取り組むための神学的な話し合いの場を作り出すということである。

開催に協力する団体は、青山学院大学、関東学院大学、日本キリスト教会神学校など学校、日本基督教団、日本バプテスト連盟、日本バプテスト同盟、日本福音同盟などの教派団体で29団体に及ぶ。

シンポジウムを開催するにあたり、各団体代表者会議を頻繁に開催し、いままで互いに面識のなかったさまざまな団体のリーダーたちが顔の見える信頼関係を築いていくことである。

第二は、シンポジウムでは、東日本大震災を聖書的、神学的に捉えることである。この苦難の中で神が何をしておられるのか、何を語りかけておられるのか、を考察し、わかりやすい言葉で語り、諸教会に伝え、仕えていくことである。シンポジ

ウムの「資料集」を作成し、「報告」は日本語と英語で作成し、諸外国にもシンポジウムの成果を伝えていくことを目指している。

2013年度の計画

2013年度は、3年目を迎え、まとめと今後の取り組みについて考えるシンポジウム「苦難を通し、壁を越えて、次の世代へ」を2014年2月15日(土)、17日(月)の2日にわたってお茶の水クリスチャンセンターを会場に開催する予定である。

今年度は、アメリカからホーイトン大学も参加することになり、フラー神学大学院からの講演者も含め、3名の講演者が来日する予定となっている。

1) 2月15日(土) 一般を対象にしたシンポジウム

15日は、これまでの2回のシンポジウムと同様に、主題講演、パネルディスカッション、分科会、全体会、礼拝という構成である。

パネルディスカッションでは、大震災の神学的考察をカトリック、プロテスタント、教派を越えたパネリストによって議論される予定である。

プログラム

10:00～10:15 祈りと賛美

10:15～11:00 主題講演

ホアン・マルチネス (フラー神学大学教授)

11:10～12:45 パネルディスカッション

藤原淳賀 (聖学院大学教授)

パネリスト

稲松義人 (キリスト教社会事業同盟理事長)

濱野道雄 (西南学院大学神学部准教授)

倉沢正則 (東京基督教大学学長)

菊池功 (カトリック新潟教区司教、カリタスアジア総裁)

12:45～14:00 昼食

14:00～15:30 分科会

コーディネーター

品川謙一 (日本福音同盟総主事)

15:45～16:30 全体会

デービッド・ポーアン (ホーイトン大学人道的災害支援研究所所長)

16:30～17:00 礼拝

分科会 (下記リストは2013年11月25日現在。変更

の可能性あり)

昨年、好評であった分科会は、6つの主題にしぼり、時間をかけて、現地からの報告を聞き、いま私たちがなすべき課題をじっくり考える。

(1) グリーフケア・死生学 藤掛明(聖学院大学)

(2) 支援と宣教(宣証) 大友幸一(宮城宣教ネットワーク)、鈴木真(イザヤ58ネット)

(3) 弔いについて 吉田隆(東北ヘルプ)

(4) 原発と震災 川上直哉(東北ヘルプ)、越山哲也(日本聖公会)

(5) 在日外国人と震災 佐藤信行(在日韓国人問題研究所)

(6) 次期災害への備え 栗原一芳(DRC首都圏災害プロジェクト)、岩上敬人(DRC災害対応チャプレン委員会)

2) 2月17日(月) 若い世代、学生・神学生を中心としたシンポジウム

プログラム

10:30～12:00

主題講演とテーブルディスカッション

G・カラントイス(ホーイトン大学准教授)

12:00～13:00 昼食

13:00～15:30

災害地支援をしている青年たちの発題&テーブルディスカッション

発題者:

近藤愛哉(盛岡聖書バプテスト教会牧師)

佐藤真史(日本基督教団被災地支援センターエマオ専従者)

片岡自由(会津放射能情報センタースタッフ)

桑島みくに(KGK横浜・学生)

15:30～16:00 礼拝・派遣

シンポジウムの案内と協賛・後援の依頼

上記のプログラムの主題講演者、パネリスト、分科会発表者を決め、プログラムの作成に入っている。またシンポジウム開催の費用を捻出するために、各団体に協賛また後援をお願いする。ご協力をお願いしたい。

(文責:山本俊明[やまもと・としあき] 東日本大震災国際神学シンポジウム実行委員)